

第9期 事業方針(2021/10-2022/9)

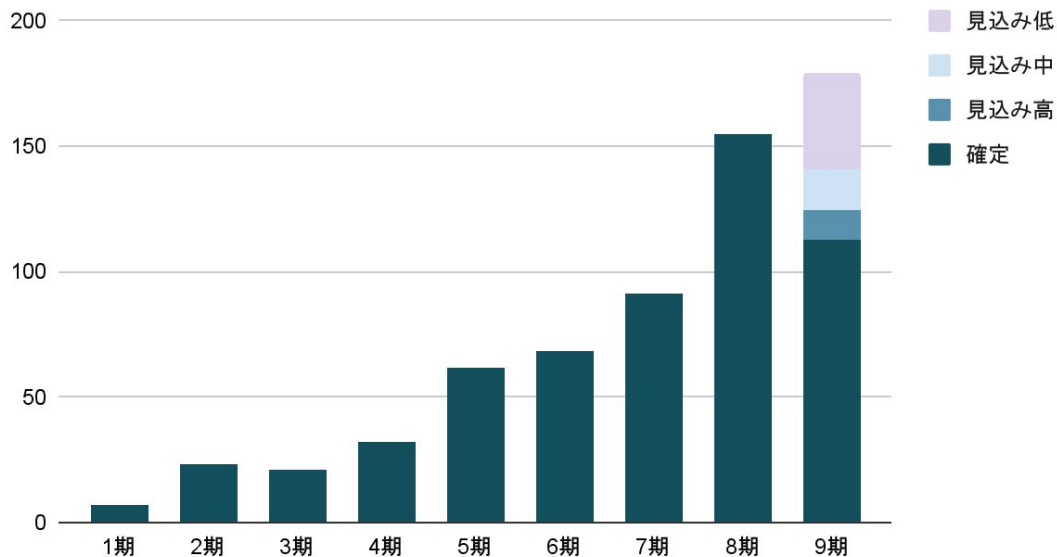
設立10年目を見据え、原点に立ち返って質的な変化を生み出す

- 組織としての地力をつける
 - コミュニティ活動の活性化
 - 3つの領域の融合
 - 行政の現場での地道な活動
- 新規事業を軌道に乗せる
 - Make our City
 - Civictech Accelerator Program
- 次の10年を見据えたビジョンと体制をつくる
 - 新代表理事
 - アドボカシー

第9期 事業方針(2021/10-2022/9)

既に前年度と同水準まで目処。トップラインよりも地道な活動を重視

確度別売上



見込み低: 予算が未確定

見込み中: 予算が確定。事業者が未確定

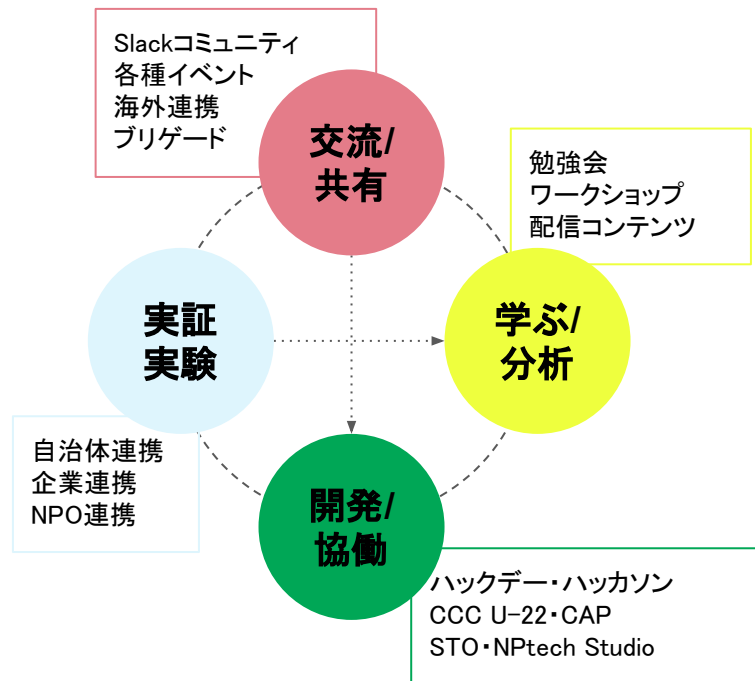
見込み高: 例年通り&事業者選定リスクなし

第8期事業振り返りと第9期事業計画

- Civictech領域
- Govtech領域
- NPtech領域
- Make our City

Civictech領域について

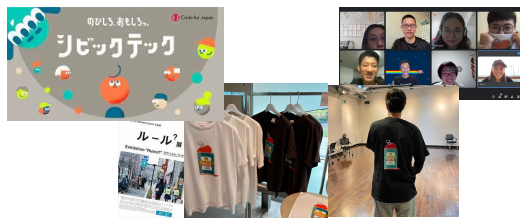
- シビックテック自体の啓蒙・啓発
 - 紹介動画
 - 概要説明記事
- コミュニティの醸成・拡張
 - Slackコミュニティ
 - ブリゲードや外部コミュニティとの連携
- govtechやNPtechとの連携・ハブ機能
 - civic-gov連携(e.g.学校授業
 - 加古川東高校(CCC × 自治体連携)
 - civic-NPO連携(e.g.教材コンテンツ
 - プロトタイピング解説
 - ・Githubの使い方(CCC→NPStudio)



第8期 Civictech領域

コミュニティ参加者は引き続き増加 4,400(2020)→6,100(2021)

シビたん動画+OSST



2121design ルール展

- 130日開館、79,509名来場
- シビックテック解説動画
- グッズ72個販売
- CfK(韓国)が別カラーver.作成

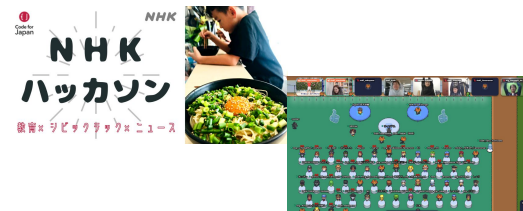
CCC 2nd / CAP 1st



インキュベーション+アクセラレーション

- CCC:参加者204名(2倍)
 - イベント12回(2.5倍)
 - 9社16口+OSF
- CAP:3チーム採択
 - デモデー2チーム発表

SHD+コラボ拡張版



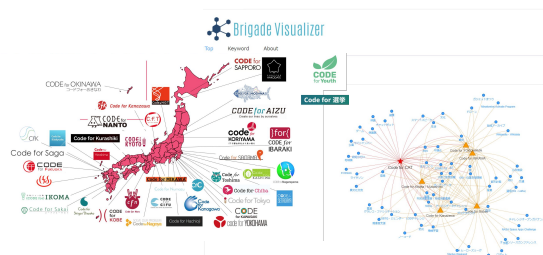
毎月開催+GatherTown

- 毎月開催・年間441名参加
- NHKハッカソンは50名満席
- 定着プロジェクト複数
- 開催方法の改善(会場など)

第9期 Civictech領域

定期イベントとコミュニケーションの強化・オフライン交流再始動

ブリゲード連携



全国コミュニティ行脚

- オンラインで7回開催
- オフライン解禁後
 - meetup@岐阜?
 - 行脚再開?

オープンサイエンス



研究機関・教育機関

- 環境研究所→Decidim
- 精神神経医療研究センター→ハックデープロジェクト
- シチズンサイエンス研究センター→学部生向け講義検討中

Govtech/自治体連携



産学官連携・実証実験

- 加古川市×プロトタイプング講座
- 浜松市×高校授業
- 公立高校×授業×CCC
- 大学×大学講義×CCC

第9期 Civictech領域

活性) 生態系の構築・維持

- 都市部⇄地方
 - →人材・機会・資金の提供
 - ←事例共有・人材交流
- 国内⇄海外
 - →Code for All/Facing the Ocean
 - ←サミットなどで情報翻訳
- 学生・若手⇄社会人
 - →CCC最終/CAPデモデー
 - ←CCCメンタリング・勉強会

質) インパクト評価・再現性・持続可能性

- 共通基盤
 - データリポジトリ
 - ガイドライン
- オープンサイエンス
 - オープンデータ・共有
 - 研究効率化
 - 信憑性・透明性



<https://rcos.nii.ac.jp/>

第8期 Govtech領域

自治体DXを中心にニーズが多様化

データアカデミー



DX



自治体人材採用



<https://www.bizreach.jp/job-feed/public-advertising/jcx63cx/>

多様化 & 連携

- 栃木県・大田区など様々なパターンで実施
- 山口県などブリゲードやコミュニティメンバーと連携

進化 & 多様化

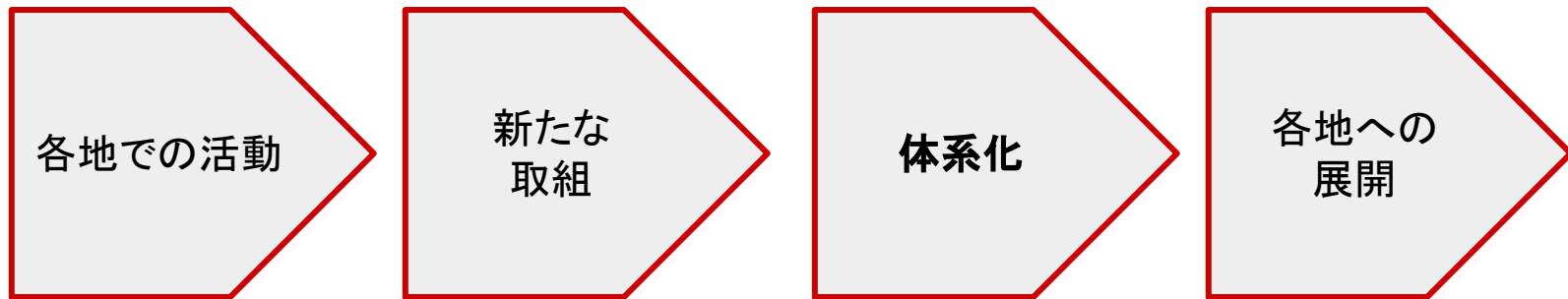
- サービスデザインなど新たな手法の導入
- 豊岡市では地域の区長DXを実施

増加

- 北上市や加賀市の採用をサポート

第9期 Govtech領域

インパクトを最大化するために活動を体系化し、各地に展開していく



- データ活用、BPR、サービスデザインなど、これまでの方法論や資料の整理
- 体系化し、資料を共有する枠組みをつくることでCode for Japan以外でもできるようにしていく
- Code for Japanが行う価値のあるプロジェクトにフォーカスしていく

第8期 NPTech領域

コレクティブインパクトを生み出す基盤づくりに挑戦

NPTech Studio



3ヶ月間(期間中6回)のプログラムを2回
(4月,9月)計5団体で実施。

- NPO法人サンカクシャ
- NPO法人くるくるネット
- NPO法人good!
- NPO法人せいしとらんし熊本
- NPO法人Cool Fukuoka

フィールドワーク



- 18団体での継続実施
- 4団体での実施検討中
- 約40名のSTO候補を輩出

STOサポート

フィールドワーク後の STO(候補)の支援

専門ユニットの立ち上げを行い、支援体制を構築

- インフラユニット
- デザインユニット
- コミュニティユニット

第9期 NPTech領域

ソーシャルセクターのITプラットフォームを目指しSTO創出にフォーカス

STO普及啓発PJ

外部連携と広報強化

- 活動に関わるエンジニアやNPOを増やすために、STOの認知向上を通じ、企業や中間支援組織などとの連携を更にすすめる
過去の連携事例: OSF/NTTデータ
- イベント/Webなどの広報手段の整備

STO創出PJ

敷居を下げ、裾野を広げる

- NPTech Studio/フィールドワークの継続実施
- NPO/エンジニアの参加者拡大に向けて、敷居を下げたプログラム「エントリー」開始
- 1,2時間程度の勉強会や研修、短時間のワークショップ
- 「エンジニアのキャリアパス」としてのSTO像を作る

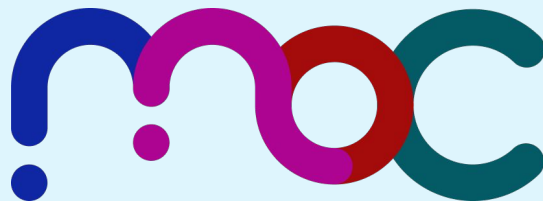
コミュニティ活性化

エンジニアコミュニティ

- STO候補となるエンジニアコミュニティを活性化するためのイベント等を検討
- 普及啓発PJを通じた広報の強化により、参加者を増やす
- 創出PJを通じた参加者の活性化

Make our City

わたしから始める、スマートシティ



Civictech、Govtech、NPTechの融合領域

Make our City プロジェクト

「わたし」主体のまちづくりを通して、多様なwell beingを実現する

ミッション:

多様な人がまちづくりに参加できる仕組みを作る



「わたし」のエンパワーメント(市民参画)



暮らしの質をとらえる(Liveable Well-Being City Index)



暮らしづくりの基盤整備(データ連携基盤FIWARE)

上記3つの観点で外部協力者と連携してWGを運営。
21年度は豊岡市、浜松市をフィールドに活動。
データ連携基盤を活用した企業との実証実験や市民との対話(WSやインタビュー)を通して、他地域にも展開できるようなユースケースを検討。

